

「あなたはあなたらしく」 ヨハネ 21：18～23

I 導入部

おはようございます。新年あけましておめでとうございます。去年は、本当にお世話になりました。今年もお世話になりますので、よろしく願いいたします。

2018年が始まりました。新しい年を迎えて1週間目となります。良きお正月をお迎えになられたことでしょうか。2018年の元旦礼拝では、ペトロを通して、とにかく神様の言葉を実践してみようとお話ししました。

2018年の最初からいい事があったかも知れません。逆に、新年早々良くない事や嫌な事があったかも知れません。2日、3日は、箱根駅伝がありました。ご覧になられたでしょうか。やはり青山学院大学は強かったですね。往路は東洋大学が優勝しました。今年は東洋大学かなとも思いましたが、復路の6区で青山学院が追い抜き、そのまま1位でゴールしました。往路で順位を上げた大学も、復路では順位を下げた大学もあり、往路では下位の順位であっても、復路では上位に上がった大学もありました。我が日本体育大学は4位でした。往路では十何位で大丈夫かなあと考えていましたが、復路の後半で10区で4位となりました。来年は2位か3位で、2020年の記念すべき年は優勝をねらってほしいと思います。

最初良くても、後半悪くなることもあり、最初悪くても、後半よくなることがあります。新年の出だしがいかようでも、私たちには、いつもイエス様が共におられ、私たちの重荷を負って下さりマイナスさえもプラスにして下さるのです。困難を通して必要なことを教えて下さり、いつも最善に導いて下さるので、この1年もイエス様を信頼して、イエス様に全てを委ねて歩んでいきたいと思うのです。

2018年の最初の礼拝では、ヨハネによる福音書21章18節から23節を通して、「あなたはあなたらしく」という題でお話しいたします。

II 本論部

一、覚悟を持った従い方

イエス様は、弟子のペトロに個人的に話をされ、ご自分を愛するか、と問われ、ペトロは、愛していることはあなたをご存知であると答えました。イエス様は3度問われ、ペトロは3度答えました。イエス様を3度知らないと否定したペトロに、イエス様は回復を与えて下さり、新しい使命を与えられたのでした。

イエス様が、ペトロに新しい使命を与え、その使命に生きるために要求されたことは、

信仰でもなく、力でもありませんでした。イエス様に仕え、人々を世話するために、信仰が必要だ、力が必要だとは言われなくて、イエス様を愛する愛が必要でありました。そして、ペトロは愛の回復をいただいたのです。「あなたは、私があなただを愛していることを知っておられます。」(21:17) という愛の告白は、一つの決断を要求します。それは、ペトロがイエス様に従うことでした。

18節を共に読みましょう。「はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」 「両手を伸ばして」というのは、手を伸ばして十字架にはりつけになることを意味しているようです。ペトロは、逆さ十字架について殉教したと言われていました。19節には、「ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。」とあります。

「はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」という内容は、「ペトロが十字架につけられて死ぬことによって栄光をあらわす」ということを示しているのです。18節、19節のイエス様の言葉は、ペトロが本当に、イエス様に従って仕えて生きようとするならば、それには困難や苦しみに伴うことを知らせようとなされたのです。これは、ペトロだけに言われた言葉ではなく、同じようにイエス様を信じて、イエス様に仕えて生きようとする私たちにも語られたイエス様の言葉なのです。

イエス様を本当に信じて、この世の考え方や常識、この世の価値観に妥協することなく、生きていこうとするならば、この世においては困難や苦しみを経験するということです。この世の考え方や常識、この世の価値観に従って生きていくなれば、困難や苦しみはそんなないかも知れません。けれども、この世の考え方や常識、この世の価値観に妥協しないで生きる者には困難や苦しみはつきものなのです。イエス様は、イエス様を本当に信じて従う者に次のように語られました。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ 16:33) イエス様はすでに世に勝っている、勝利者なのです。ヨハネ第一の手紙 5章 4節～5節には、「神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。だれが世に打ち勝つか。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。」とあります。世に打ち勝つ者は、「イエスが神の子であると信じる者」なのだと聖書は語ります。

イエス様は、私たちに勝利者である私が、いつも共にいることを常に覚えて勇気を出しなさい、と私たちに語られるのです。この1年、あるいは、私たちの将来には、何が起こるのか、何が待っているのか、わかりません。しかし、この世に打ち勝ち、勝利されたお方が、いつもあなたとともにおられることを覚え確信し、勝利者なるイエス様に信頼してまいりましょう。

二、わたしはイエス様に従えばいい

20節には、ペトロが振り向くと、ヨハネがついて来るのが見えたとあります。イエス様の愛しておられた弟子とは、ヨハネのことです。最後の晩餐の時、イエス様のそばにいて、ペトロの指図で、「主よ、裏切るのはだれですか。」と尋ねた人物でした。

ペトロは自分に言われたイエス様の言葉、「はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」という言葉が不安でした。しかも、「ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして」とイエス様がさらに不安になるようなことを言われて、かなり落ち込んだのではないのでしょうか。ですから、21節のように問うのです。21節を共に読みましょう。「ペトロは彼を見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言った。」

自分だけに不安な将来を示されたので、ヨハネの将来についても知りたくなかったのではないのでしょうか。私たち人間という生き物は、いつもいつも、どこかで、他の人と自分を比べて生きる者ではないのでしょうか。ペトロは自分の将来だけが何か不吉な内容であることに、不公平を感じて、年の若いヨハネの将来にも、試練や苦しみなどが伴うのかどうか、を知りたかった。知ってみたいかっただけでしょう。ペトロは、自分の人生とヨハネの人生を、自分の将来とヨハネの将来を比べようとしたのではないのでしょうか。

イエス様の答えは22節です。「イエスは言われた。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」 「主よ、この人はどうなるのでしょうか」ということは、ペトロには関係のない事であって、ペトロには、イエス様に従うということを示されました。

けれども、人間は、関係がないと言われることを余計に関係あることと考えてしまうものです。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても」とヨハネについて言われたイエス様の言葉は、ペトロには本来関係ないのですが、このことがペトロには重要となったのです。そして、23節にあるように、「この弟子は死なない」といううわさ、つまり、ヨハネは死なないのだといううわさが広まってしまったのです。

やっぱり「この弟子は死なない」という内容の方が、重要視されていってしまうのです。本来は、この内容は、ペトロやほかの人には関係のない事なのです。

神様は、私たち一人ひとりを神様の形に似せて、一人ひとりをユニークな存在として創造されました。私たちは、自分自身の間人としての価値、私たちの働きや使命、私たちに与えられている神様の祝福というものは、他の人と比べることによって決定するものではありません。けれども、現実に、自分よりも別の人の方が、この世的に見るならば、自分よりもすぐれているように見えたり感じたりします。また、自分よりも恵まれていたり、祝福されているように見えたり感じたりすることがあるのです。しかし、あなたの間人としての価値や働きや使命は、他の人と比べて見て優劣をつけても、何の意味もありません。ただ比べることによる、優劣をつけることにより、落ち込んだり、傲慢になったりとプラスの面は何一つないのです。比べることではないのです。しかし、私たちは、なんと他人との比較で生きているのではないのでしょうか。信仰の世界、教会生活、神様から与えられ

た賜物においても、他人との比較で生きているということはないでしょうか。

イエス様は言われました。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」と。関係ない事に一生懸命なるのではなく、あなたは、わたしに従いなさい。大切なことは、私が、あなたがイエス様に従うということなのです。

三、わたしはわたしらしくイエス様に従う

ペトロが気にすべきことは、ヨハネが死なないといううわさではなく、「あなたは、わたしに従いなさい。」という、ペトロに語り掛けられたイエス様のお言葉でした。ですから、ヨハネが死なないといううわさは、ペトロに関係のない事だったのでした。

元旦礼拝のメッセージは、ルカによる福音書5章1節から11節の箇所でした。ペトロは、何十年というプロの漁師としての経験や魚の捕れる時間や場所の常識をはるかに超えた大漁に恐れおののき、イエス様の前にひれ伏した、ぶっ倒れたのでした。ペトロは、「わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです。」と言った時、イエス様は、「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」と言われました。それは、大丈夫、あなたは神様の働きに加わるのだ、とペトロを召されたのでした。聖書には、「彼らは、舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。」とあります。イエス様のお言葉にペトロは応答した。従ったのです。

ペトロは、イエス様の召しに、全てを捨てて従ったのですが、今回、イエス様は、ペトロに、「わたしに従いなさい。あなたは、わたしに従いなさい。」と言われました。今回の、「従いなさい」は、ペトロがイエス様を三度知らないと言った後の事です。そのイエス様を否定したペトロに、「わたしを愛しているか」と三度問われ、ペトロは三度、「主よ、わたしがあなたを愛していることを、あなたがご存じです。」と応答した後の事ですから、イエス様が「わたしに従いなさい。あなたは、わたしに従いなさい。」とペトロに言われたことの重みは、全てを捨ててイエス様に従った時とは違うのです。

今回のペトロに対するイエス様の「わたしに従いなさい。あなたは、わたしに従いなさい。」というのは、「はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」つまり、「ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして」というペトロの十字架、死をもって神の栄光をあらわすという従い方なのです。重みが随分違うのです。

イエス様に従うということは、みな同じことだと思えます。けれども、それぞれに従い方は違うのです。ですから、ペトロがイエス様に対して、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と気にすることは無いのです。ペトロはペトロでいいのです。ペトロは自分の従い方でイエス様に従っていったらいいのです。私たちも、人の事は気にしないで、あなたはあなたらしく、イエス様に従って行けばいいのです。「人は人、あなたはあなた、人の事は気にしなくてよい」とイエス様は、私たち一人ひとりに語られるのです。

Ⅲ 結論部

19節の「ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるか」ということを、榎本保郎先生は、新約聖書一日一章で、「死ぬという一番不幸なことにおいても神の栄光をあらわすことができるように、神が備えていて下さる。イエスは、私たちに栄光をあらわすような死に方も備えていて下さるのだと感謝して、平安が与えられていきたいものだと思う」と言っておられます。私たちの死に方が、たといそれが、悲惨に見えても、かわいそうに見えても、困難な死であったとしても、その死に方は神様の栄光をあらわすものにして下さるのです。

今日は、この後、成人祝福式があり、4名の方々の祝福をお祈りします。正装しておられる方々です。今、死に方の話しをしましたが、まだ死に方を考えるのには早い人々ですが、必ずしも年を重ねた者が先に死ぬとは限らないのです。ですから、大切なことは、長生きすることではなく、勿論、長生きすること、できることは素晴らしい事ですが、いつ召される時が来ても、イエス様の十字架と復活を通して、魂の救いと罪の赦し、永遠の命を信仰によっていただくということが何よりも大切な事です。

聖書は、私たちが自分の人生から魂の親である神様を除外し、無視して生きることを罪と言っています。この罪を持つ限り、罪の赦しと魂の救い、永遠の命は与えられません。しかし、神様は私たちを愛して、私たちの罪を赦すために、神であるお方イエス様を人としてこの世に送り、私たちの罪の身代わりにイエス様が十字架にかかり、父なる神様から裁かれ、尊い血を流し、命をささげて下さいました。身代わりに死んで下さったのです。私たちは、自分勝手に生きていたことを素直に認め、自分の心にも罪があることを認め、その罪の為にイエス様が十字架にかかり死んで下さったこと、そして、死んでよみがえられたことを信じることによって、罪の赦しと魂の救い、永遠の命をいただきたいと思うのです。

特に若い方々は、他の人といろいろな事を比べて、喜んだり落ち込んだりしているかも知れません。他人の将来の事やいろいろな事が気になるかも知れません。イエス様は、他人の将来の事、ここではヨハネの将来については、ペトロの関心ごとではなく、イエス様の関心ごとであると言われます。ペトロの将来もヨハネの関心ごとではなくイエス様の関心事なのです。私たちは、人の関心ごとではなく、イエス様が私に関心を持って下さることを信じたいのです。イエス様は、あなたが人真似をすることでもなく、他人を気にすることでもなく、あなたはあたらしく生きることを望んでおられるのです。

2018年がどのような年になるのか誰にもわかりません。しかし、全てを知っておられるお方、「**あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。**」と言っておられるお方、イエス様に全てをお任せして、この年も歩んでまいりましょう。